





# ねりま接続期プログラム

～子どもの育ちと学びをつなぐ～



平成30年(2018年)6月  
練馬区教育委員会

# 目次

	ねりま接続期プログラムの発行にあたって	1
	I 0歳児～小学校1年生5月上旬までの子どもの姿	3
	II 接続期の指導および家庭との連携のポイント	11
	III 年齢別実践例	
	(1) 0歳児	20
	(2) 1歳児	21
	(3) 2歳児	22
	(4) 3歳児	23
	(5) 4歳児	24
	(6) 5歳児	25
	(7) 小学校1年生	
	① 入学～2週目	27
	② 2週目～5月上旬	28
	IV 参考資料「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」	29
	(※幼稚園教育要領、保育所保育指針より抜粋)	

## (参考)「接続期」の定義について

このプログラムにおいては、【5歳児の10月から小学校1年生の5月上旬まで】の期間を【接続期】としています。

一方で、接続期の指導・連携を充実させるためには、それ以前の子どもの姿や育ちに関する共通理解が重要となります。そのため、このプログラムでは、接続期だけに特化するのではなく、その他の年齢にも焦点を当て、実践例などを記載しています。

# 「ねりま接続期プログラム」発行にあたって

練馬区教育委員会では、平成24年5月に「練馬区幼保小連携推進協議会」を設置して以来、幼児期から児童期への段差を乗り越える力を養い、幼児期の学びと児童期の学びの連続性を保つため、研修会や意見交換会、懇談会の開催、「ねりま幼保小連携だより」による連携事例の紹介など、幼稚園・保育所・小学校の連携を推進してきました。

また、平成28年2月に策定した、「練馬区教育・子育て大綱」では、「夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備える子どもたちの育成」を目標としており、その実現にあたっては、これまで以上に幼稚園・保育所・小学校が相互理解を深め、子どもの育ちと学びの連続性を大切にすることが重要となっています。

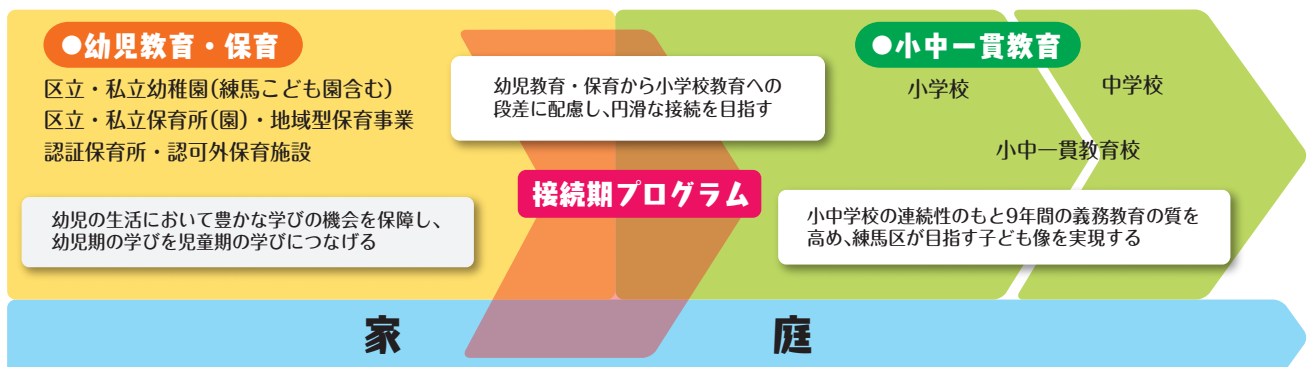
そこで、幼児教育・保育、小学校教育に携わる職員が、乳幼児期・接続期の子どもへの理解を深め、継続的な支援・指導を行い、円滑な接続を目指すことができるよう「ねりま接続期プログラム」を作成しました。

このプログラムは、幼稚園・保育所・小学校の各校長・園長および教職員を中心とする会議体を設置し、話し合いを重ねてまとめ上げたものです。「0歳児～小学校1年生5月上旬までの子どもの姿」では、乳幼児期も接続期につながる重要な期間ととらえ、接続期だけでなく、0歳児からの子どもの姿についてもまとめました。これを踏まえて「接続期の指導および家庭との連携のポイント」では、幼児期から児童期の指導の様子やつながりを示すとともに、家庭との連携についてもまとめました。続く「年齢別実践例」はこれらのポイントをわかりやすく紹介したものです。

本プログラムを活用し、互いの教育・保育の考え方や内容について一層の理解を深め、各現場における教育・保育活動のさらなる充実を図っていただきたいと思います。

練馬区幼保小連携推進協議会

## 接続期プログラムのイメージ図





# I

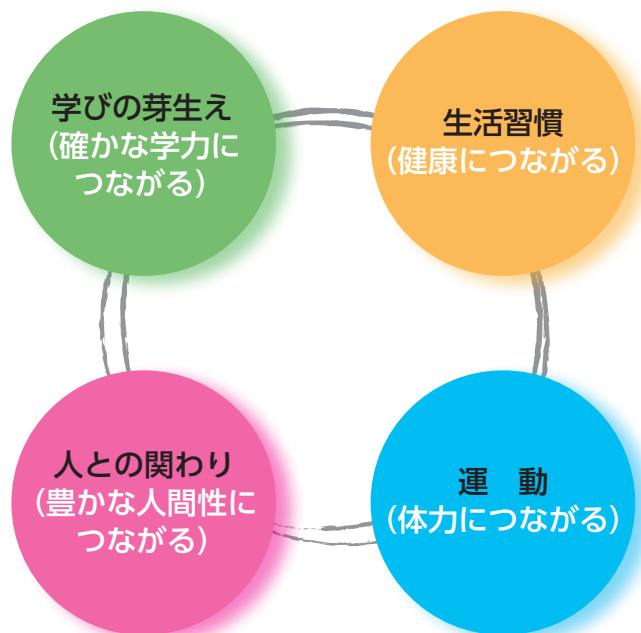
## 0歳児～小学校1年生 5月上旬までの子どもの姿

接続期における教育・保育活動を充実させるためには、その期間だけに限定せず、子どもの姿を0歳児から見通すことが重要です。

小学校に入学するまでどのように成長してきたのか、また、幼稚園・保育所を修了した子どもが、入学後どのような姿を見せていくのか、幼稚園・保育所・小学校それぞれの立場からご覧ください。

この「ねりま接続期プログラム」においては、乳幼児期に確実に経験させたい内容の視点として「学びの芽生え」(思考・言葉・創造)「人とのかかわり」(協同・信頼・規範)「生活習慣」(運動)を設定しています。

なお、それぞれの視点は、東京都教育委員会が発行している「就学前教育カリキュラム 改訂版」内の「生きる力の基礎」に基づいて設定しています。



## ▶ 0歳児～小学校1年生5月上旬までの子どもの姿 ◀

		保育者と出会い 安心感が育まれる時	安心できる環境の中で 行動範囲を広げていく時	身近な人・物・ことへの関心が 生まれはじめる時	気の合う友達との 関わりが増える時
		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児
こころ		保育者に欲求を受け止めてもらい、安心して過ごす。	自分の気持ちを受け止めてもらい、安定感をもって生活する。	自我を受け止めてもらう中で自分の気持ちを表わす。	身の回りのことへの興味や関心が高まり、質問ややり取りを通して、言葉による表現が豊かになってくる。
		保育者と視線を合わせ、喃語(注：意味のある言葉を発する前の言葉)や互いの表情などを通してやり取りを喜ぶ。	保育者との応答的な関わりの中で言葉を理解し、話そうとする。	生活や遊びの中で言葉のやり取りを楽しむ。	友達との関わりを徐々に深め、互いに共通したイメージをもって遊びを楽しむ。
		離乳食から幼児食へ徐々に移行する。	保育者の手助けを受けながら、身の回りの簡単なことを行おうとする。	保育者に見守られながら、身の回りの簡単なことを自分で行おうとする。	生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分で行おうとする。
		運動面の発達によって様々な刺激を受け、生活空間を広げていく。	歩行の開始によって身の回りの様々なことに興味や関心を示し、探索活動を十分に楽しむ。	保育者や友だちと一緒に体を動かすことを楽しむ。	様々な動作や運動を取り入れた遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考	何でも口にもって行って確かめようとする。	戸外や室内において、身の回りの様々な物に好奇心をもち、見たり触ったりしながら、行動範囲を広げていく。	自我が強くなり何でも自分でしようとする。	好奇心が盛んになることで、生活や遊びの中で色、数、形、量などに興味をもち、それぞれの違いに気付く。
		特定の大人や、自分が興味をもった物に関わろうとする。			
	言葉	保育者との応答的な関わりの中で、簡単な言葉の意味することが分かり始める。	指差し、身ぶり、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。	生活に必要な言葉を知り、自分の思いや気持ち、経験したことを簡単な言葉で保育者や友達に伝えようとする。	自分の思ったことや感じたことを言葉に表し、保育者や友達と言葉のやり取りを楽しむ。
		心地よさや欲求などを、表情や喃語で表現する。	好きな絵本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。	絵本を読んでもらったり、繰返しのある言葉やフレーズを使ったりして保育者や友達と遊ぶことを楽しむ。	絵本や紙芝居などの簡単なストーリーのおもしろさが分かり、見たり聞いたりして楽しむ。
	創造	身の回りのことに興味をもち始め自らやってみたいという意欲が芽生える。	保育者と一緒に歌を歌ったり、リズム遊びを楽しんだりする。	興味のあることや経験したことなどを保育者と一緒に自分が好きなように表現する。	好きな物になりきったり見立てて遊んだりする中で、気付いたり考えたりしながら、自分のイメージを表現して楽しむ。
			ちぎる、破く、めくる、はがす、貼り付けるなど、手や指先を使った遊びを十分に楽しむ。 水、砂、土、紙、小麦粉粘土など、様々な素材に触れる。	のりや、はさみなどの道具に興味をもち、保育者と一緒に使いながら遊ぶを楽しむ。	身近な素材や用具を使って自由に描いたり、切ったり、貼ったりして楽しむ。

クラスのみなのですることが 楽しめるようになり、 友達とのつながりが生まれる時	慣れ親しんだ場所で主体的に 生活を進めようとする時 就学への期待をもつ時	新しい場所での生活に不安と期待をもって 新しい生活をスタートする時	
4歳児	5歳児	1年生入学～2週目	入学2週目～5月上旬
<p>自分なりに考え、遊ぶことを楽しむ中で友達と思いを伝え合う。</p> <p>自分の思うイメージや考え方を互いに出し合ったり、相手の思いに気付いたりしながら遊びや活動をともに楽しむ。</p> <p>身の回りのことに関してはほぼ自立し、生活の中で必要なきまりや遊びのルールを理解して自分から守ろうとする。</p> <p>様々な遊びに自分から取り組み、体を十分に動かして遊ぶ。</p>	<p>遊びや生活に自分なりの目的や課題をもち、見通しをもって自分から取り組むようになる。</p> <p>クラスの目的に向かってともに遊びや活動に取り組む喜び、心地よさ、達成感を味わう。</p> <p>最年長であることを自覚した上で自分たちで生活を進め、必要なルールを自ら理解して守ろうとする。</p> <p>生活習慣を確立し、就学に向けて期待をもつ。</p> <p>安全に気を付けながら様々な運動や遊びに取り組み、全力で走ったり跳んだりする楽しさを味わう。</p>	<p>小学校への期待をもって登校し、話を聞いたり見たりしながら安心して過ごす。</p> <p>先生や友達の顔や名前を憶えて身近な人と楽しく関わろうとする。</p> <p>学校生活に必要なきまりや約束を少しずつ覚えながら、小学校生活を安心して過ごす。</p>	<p>学習の仕方や授業のリズムが分かり、進んで学習に取り組もうとする。</p> <p>先生や友達、上級生の顔や名前を数多く覚えて、自分から関わろうとする。</p> <p>学校生活に必要な手順やきまり、約束を確認しながら、小学校生活を楽しく過ごす。</p>
<p>身の回りにある道具、遊具、素材の性質が分かり、適切な使い方を知って遊びに取り入れようとする。</p> <p>身近な自然（物）や事象に興味、関心をもったり、不思議さを感じたりしながら遊びに取り入れようとする。</p>	<p>身近な自然の事物や文字・数に関心をもち、試して遊ぶ。</p> <p>疑問に思ったことを友達と試したり、自分の思うようにできるまで工夫をしたりして遊ぶ。</p>	<p>学習することに関心をもつ。</p> <p>学習対象に関心をもち、楽しく学習に取り組む。</p>	<p>考えたり、教えられたことを理解したりして学習を楽しむ。</p> <p>学習対象に関心をもち、入学前の経験と比べたり、試したり、予測したり確認したりしながら、楽しく学習に取り組む。</p>
<p>遊びや生活に必要な言葉が分かり、場面に応じて言葉で伝えようとする。</p> <p>絵本や紙芝居などに親しみ、内容に興味をもち、想像する楽しさを感じる。</p>	<p>誰にでも自分から親しみをこめて挨拶したり、場面や相手に合った適切な言葉を使おうとする。</p> <p>友達や保育者の話を最後まで聞こうとしたり、相手の思いを汲み取ろうとしたりする。</p>	<p>学校生活や学習に用いる言葉を知り、使おうとする。</p> <p>先生や友達と、自分の名前や自分が好きなことを楽しく伝え合う。</p> <p>文字や数字に興味をもち、進んで読もうとする。</p>	<p>学校生活や学習に用いる言葉を理解し、場面に応じて使う。</p> <p>先生や友達と関わり合うとともに、知っている文字や言葉を使って、関心をもったことや気付いたことを楽しく伝え合う。</p>
<p>友達と一緒に音楽を聴いたり、音楽に合わせて歌ったり踊ったりしてリズム遊びを楽しむ。</p> <p>様々な素材や用具を使って、自分たちの遊びや生活に必要なものを描いたり作ったりする。</p>	<p>遊びや生活の中でイメージを出し合い広げながら話作りや劇、歌、リズム遊びなどを楽しむ。</p>	<p>身近な環境や学習対象との関わりを楽しんだり、そこで感じ、考え、気付いたことを表現する楽しさを自分なりに味わったりする。</p> <p>歌いながら手遊びをしたり、体を動かしたりする。</p>	<p>身近な環境や学習対象に積極的に関わりそこで感じ、考え、気付いたことを進んで自分なりに表現する。</p> <p>正しく鉛筆を持ち、文字や数字の読み書きをする。</p>



## 0歳児～小学校1年生5月上旬までの子どもの姿

		保育者と出会い 安心感が育まれる時	安心できる環境の中で 行動範囲を広げていく時	身近な人・物・ことへの関心が 生まれはじめる時	気の合う友達との 関わりが増える時
		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児
人との関わり	協同	<p>自分を取り巻く世界を認知し始める。</p> <p>相手のしていることに興味を示し、自分もやってみようとする。</p>	<p>生活や遊びの中で、保育者や友達が行っていることに興味をもったり、関わったりしようとする。</p> <p>玩具の取り合いでトラブルが増えてくる。</p>	<p>ひとり遊びを楽しみながら、保育者が仲立ちとなることで友達と遊ぶこともある。</p>	<p>保育者や友達と一緒に活動することを喜ぶ。</p> <p>同じ遊びをそれぞれが楽しんだり好きな友達と一緒に楽しんだりする。</p>
	信頼	<p>愛着関係が深まり、人見知りをするようになる。</p>	<p>保育者との安定した関係の中で、自分の気持ちを身振りや片言で表現する。</p>	<p>自分の表した気持ちや欲求を受け止めてもらうことを喜ぶ。</p>	<p>生活や遊びの中で、自分の思いを自分なりの言葉や方法で保育者や友達に伝えようとする。</p>
	規範	<p>褒めてもらうと喜ぶ。</p> <p>叱られたことが分かる。</p>	<p>簡単な指示で、危ないことをやめたり、少しの間待つことができたりする。</p>	<p>貸し借り、順番、交代などのきまりが分かるようになる。</p>	<p>生活や遊びの中で、簡単なきまりを守ろうとする。</p>
生活習慣		<p>少しずつ食べ物に親しみながら、咀嚼と嚥下(えんげ)を繰り返し、離乳の時期を経て、食事のリズムができる。</p> <p>手づかみで食べようとしたり、コップを両手で持って飲もうとしたりする。</p> <p>起きている時間が長くなり、日中数回の睡眠が1回になっていく。</p>	<p>保育者に手伝ってもらいながらスプーンやフォークを使って自分で食べようとする。</p> <p>(保育園では) 一定時間午睡をする。</p>	<p>楽しい雰囲気の中で、スプーンやフォークを使っているいろいろな食べ物を食べてみようとする。</p>	<p>食べ物に関心をもち、様々な食べ物を進んで食べようとする。</p> <p>食事のマナーを意識して食べようとする。</p> <p>(保育園では) 休息程度に午睡をする。</p> <p>(幼稚園では) 静と動の活動をバランスよく計画した生活の中で、必要に応じて休息をとる。</p>
		<p>清潔を保つことは気持ちが良いという経験をする。</p>	<p>オムツが濡れていない時、便器に座ると排尿することもある。</p> <p>着替えの時、自分から手足を動かして服を着せてもらおうとする。</p>	<p>保育者に見守られ、トイレでの排泄に慣れる。</p>	
				<p>手洗いやうがい、食事、衣類の着替えなど、身の回りのことを自分でしようとする。</p>	<p>手洗いやうがい、食事、排泄、衣類の着脱などがほぼ自分でできるようになる。</p>



クラスのみなのですることが楽しめるようになり、友達とのつながりが生まれる時		慣れ親しんだ場所で主体的に生活を進めようとする時 就学への期待をもつ時		新しい場所での生活に不安と期待をもって新しい生活をスタートする時	
4歳児		5歳児		1年生入学～2週目	
<p>クラスの友達とすることの意味が分かって取り組み、つながりや気持ちのつながりが合える快さを感じる。</p> <p>自分の思いや考えが友達に分かってもらえる嬉しさを感じる。</p>		<p>思いや考えが互いに違ってもうまくいかないときがあっても、友達と工夫をしたり折り合いを付けたりして、課題を乗り越えようとする。</p> <p>共通の目的に向かって、自分と友達の得意なことや良さを認め合いながら活動する充実感を味わう。</p> <p>異なる年齢の友達に思いやりや親しみをもつ。</p>		<p>初めて会う先生や友達と進んで関わろうとする。</p> <p>先生や友達に進んで挨拶をする。</p>	
<p>友達と遊ぶ中で思い通りにいかない葛藤場面を通して、相手にも自分の思いや考えがあることに気付く。</p> <p>友達と楽しく生活する中で、危険なことやきまりの大切さなどに気付き、自分なりに判断して守ろうとする。</p> <p>簡単なルールを守って遊ぶことの楽しさを味わう。</p>		<p>身近な友達と関わる中で、自分の思ったことを相手が分かるように伝えたり、相手の立場に立って思いを受け入れたりする。</p> <p>活動に合わせてルールを考えたり変更したりしながら、自分たちの作ったルールを守って友達と一緒に遊ぶ。</p> <p>今は何をすべきかを自分なりに判断し、状況に応じた行動をとる。</p>		<p>新しく出会った先生や友達の顔と名前を覚え、友達と話をしたり仲良く遊んだりする。</p> <p>上級生と関わり、親しみをもつ。</p> <p>校内でのきまりを知り、守る。</p> <p>友達が嫌がることなど、してはいけないことはしないようにする。</p>	
<p>身支度、片付け、食事の準備、衛生の習慣を丁寧に行うことの心地良さを味わう。</p>		<p>身の回りの片付けや整理整頓の大切さを知り、見通しをもって進んで行く。</p> <p>健康な生活や病気の予防に関心を持ち、生活リズムの大切さが分かるようになる。</p>		<p>好き嫌いせず何でも食べる。</p> <p>早寝、早起きをし、朝ごはんを食べて決められた時間に登校する。</p> <p>学校の生活時程に慣れようとする。</p> <p>子どもたちだけで登校する。</p> <p>給食の準備から片付けまでの手順や方法が分かるようになる。</p> <p>先生の話をしっかり聞く。</p> <p>自分のことは自分で行おうとする。</p> <p>学用品の管理を自分で行う。</p>	
<p>手洗いうがいなどのやり方が分かり、自分から進んで行おうとする。</p>		<p>病気の予防に関心を持ち、意識して手洗いうがいがい、衣服の調整を行おうとする。</p>		<p>手洗いうがいがい、簡単な清掃を行い、健康に留意する。</p>	
				<p>決められた時間内に自分の体に合った量の食事をとる。</p> <p>早寝、早起き、朝ごはんの習慣が身に付いている。</p> <p>学校の生活時程に慣れる。</p> <p>給食の準備から片付けまでを協力して行う。</p> <p>先生や友達の話最後まで聞く。</p> <p>時間を意識して行動する。</p> <p>自分のことは自分で行い、困ったときは大人に相談する。</p> <p>学用品を自分で管理するとともに、整理整頓を心がける。</p> <p>自分で着替えをし、脱いだ衣類はきちんとたたむ。</p> <p>手洗いうがいがい、清掃を進んで行い、健康に留意する。</p>	

▶ 0歳児～小学校1年生5月上旬までの子どもの姿 ◀

	保育者と出会い 安心感が育まれる時	安心できる環境の中で 行動範囲を広げていく時	身近な人・物・ことへの関心が 生まれはじめる時	気の合う友達との 関わりが増える時
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児
運動	<p>首がすわり、寝返り、腹ばい、座る、はう、立つ、伝い歩く状態を経て一人歩きをする。</p>	<p>歩く、走る、上がる、下りる、ぶら下がるなど全身を使った遊びを十分ににする。</p>	<p>保育者と一緒に身近な遊具や用具で遊んだり、戸外で十分に体を動かしたりする。</p>	<p>走る、踊る、鬼ごっこをするなど、みんなで一緒に体を動かすことを楽しむ。</p>
	<p>拳全体で握る状態から、全ての指で握る状態になり、その後、親指と人差し指でつまむ動作に変わる。</p>			

クラスのみなのですることが 楽しめるようになり、 友達とのつながりが生まれる時	慣れ親しんだ場所で主体的に 生活を進めようとする時 就学への期待をもつ時	新しい場所での生活に不安と期待をもって 新しい生活をスタートする時	
4歳児	5歳児	1年生入学～2週目	入学2週目～5月上旬
<p>簡単な遊具や用具を組み合わせて、様々な動きを楽しみながら遊ぶ。</p>	<p>友達と体を動かす遊びに積極的に取り組み、競い合う面白さや充実感を味わう。</p>	<p>友達と仲良く運動(遊び)を楽しむ。</p> <p>校庭の遊具の使い方を知り、安全に留意して運動(遊び)をする。</p> <p>簡単なきまりを守って、楽しみながら各種の運動(遊び)をする。</p> <p>休み時間に校庭で元気に遊ぶ。</p>	<p>友達と仲良く意欲的に運動(遊び)を楽しむ。</p> <p>自分のめあてをもち、ゲームや運動(遊び)をする。</p> <p>休み時間に校庭で友達と元気に仲良く遊ぶ。</p>



## Ⅱ

# 接続期の指導および 家庭との連携のポイント

ここでは、接続期(5歳児の10月から小学校1年生の5月上旬まで)における指導のポイントについて、視点(学びの芽生え、人との関わり、生活習慣、運動)ごとにまとめました。

また、練馬区教育委員会では、子育てにおける家庭教育の重要性に鑑みて、子どもの成長の根幹となる「家庭」との連携のポイントを合わせて記載しました。



## ▶ 接続期の指導および家庭との連携のポイント ◀

項目	5歳児(10月～12月)	5歳児(1月～3月)	
<b>学びの芽生え</b> (思考、言葉、創造)	<p>相手に分かるように話したり相手の話を聞いて理解しようとしたりする姿を十分認めていく。</p> <p>生活や遊びを通して文字や数字に親しむ体験を重ねることが出来る環境構成に配慮し、文字や数字に興味・関心がもてるように働きかける。</p> <p>クラスの目標(めあて)に向けて、子どもが自分の力を発揮したり長所や得意なところを生かしたりして取り組めるように、一人ひとりのよさを引き出して、子どもが自信をもって活動できるようにする。</p> <p>イメージしたことが実現する喜びを味わえるよう、子どもと一緒に考えたり、試したりする時間を確保する。また、保育者も仲間となってアイデアを出したり、できた喜びに共感したりする。</p> <p>疑問に思ったことや不思議に感じたことを考えたり確かめたりできるような環境作りを工夫する。</p>	<p>クラスで取り組んでいることについて、それぞれが自分自身のこととして受け止めてアイデアを出し合っている姿を認め、それが全体に広がっていくような雰囲気を作る。</p> <p>文字や数字への関心を高め、より興味をもつことができるように、教材の用意や場の設定をし、文字や数字を使った遊び(ごっこ遊び・絵本づくりなど)を楽しめるようにする。</p> <p>小学校生活に期待をもてるよう、小学校見学や交流会を行う。</p> <p>目的に向かって取り組んでいる姿を認めるとともに、励ましたり保育者も加わってコツをつかませたり、友達と教え合ったりしながら、子どもの思いが持続するように支え、やり遂げる喜びを感じられるようにする。</p> <p>冬の自然に関心をもたせ、事象について調べたり、試したりできるようにする。また、その過程で生じた疑問や発見をクラスの友達と共感できるようにする。</p>	
	<b>人との関わり</b> (協同、信頼、規範)	<p>善悪を自分なりに判断して行動しようとする姿を認める。</p> <p>ルールのある遊びでは、ルールを守る必要性について話し合い必要に応じて自分達で新ルールを作る機会をもたせる。</p> <p>友達とともに課題に取り組む中で、仲間の中の一人としての自覚をもって一緒にやり遂げていく達成感を味わえるようにする。</p> <p>友達とのつながりを感じる中で、目的に向かって工夫したり試したり挑戦したりしながら、自分の力を発揮していけるようにする。</p> <p>当番活動を自主的に行う子どもの姿を見守り、みんなで力を合わせてできたという自信につながるようにする。</p> <p>友達と遊ぶ中で起こるトラブルなどを、自分たちの力で解決しようとする姿を見守る。</p> <p>行事の進行上、必要となる係の仕事を通して、年長児として園全体をリードする気持ちを育てる。</p>	<p>状況に応じた行動をしようとしたり、自分なりに何をしたらいいか考えている姿を十分に認め、自信をもって行動できるようにする。</p> <p>園生活を進める上でのルールやクラスで決めたルールを遵守する意味を改めて理解させ、率先して守れるようにする。</p> <p>友達と互いの長所を生かしながら、試したり、発見したり、考えたりすることを楽しみ、自分たちで取り組んだことへの充実感を十分味わえるようにするとともに、互いのつながりやまとまりを深められるようにする。</p> <p>幼保小の交流活動を行う。</p> <p>係当番や誕生会の司会の引継ぎなどを、4歳児の動きや気持ちに寄り添いながら自信をもって行おうとする姿を認め、自分たちの成長を実感できるようにしていく。</p> <p>相手の立場に立って行動する中で戸惑いを感じているのが分かった場合、保育者はその思いを受け止めて共に考える。</p>

1年生(入学～2週間)	1年生(入学2週目～5月上旬)
<p><b>【スタートカリキュラム前期】</b> ねらい：学校への安心感をはぐくむ。</p> <p>関心をもったことや気付いたことを安心して伝えられる機会や場を設定する。(朝や帰りの会、中休みなど)</p> <p>学校生活への期待がもてるような学習環境の工夫をする。(例：机の配置・学級図書や生き物の配置・動線など)</p> <p>入学前の経験を把握し、尊重する。</p> <p>合科関連的な指導の工夫をする。(探検をして分かった内容を、道徳の授業で取り上げたり、国語の時間に文章で表現したりする。)</p> <p>学習に使う設備・用具(黒板など)や各教科で使う用具(教科書・筆箱・下敷き・ノートなど)の使い方について丁寧に教え、学習への不安を少なくするようにする。</p>	<p><b>【スタートカリキュラム後期】</b> ねらい：伸び伸びと楽しく生活する。</p> <p>関心をもったことや気付いたことなどを、言葉や絵のほかに、文字で伝える楽しさを体験する機会や場を設定する。</p> <p>やりたい、知りたいという興味・関心を大切に、学習への意欲が高まるような学習環境の工夫をする。(例：机の配置・掲示物など)</p> <p>入学前の経験との比較や関連付けをしたり予測したりできるような助言をする。</p> <p>生活科等の活動を中核とした合科関連的な指導の工夫をする。</p> <p>文字指導の際に筆記用具の持ち方・姿勢を丁寧に指導する。</p>
<p>生活科、道徳、学級活動等の関連を図り、学校生活のきまりを知ることができるようにする。</p> <p>身近な友達や担任の名前を覚えたり、ともに遊んだり関わったりする時間を重視する。([なかよしタイム]の設定など)</p> <p>関心をもったことや気付いたことを、進んで伝えられる機会や場を設定する。(中休みや各教科、朝や帰りの会など)</p> <p>上級生と関わったり手伝ってもらったりする機会や場を設定する。(始業前や生活科の「学校探検」、休み時間など)</p> <p>興味が生まれるような学習環境の工夫をする。(机、学級図書や生き物の配置、動線など)</p>	<p>生活科、道徳、学級活動などの関連を図り、学校生活のきまりの意味を伝えながら、守ることができるようにする。</p> <p>身近な友達と、ともに考えたり作ったりすることができるような機会や場を学習の中でも設定する。(生活科の学校探検、図工、国語など)</p> <p>給食や掃除などの当番活動では、入学前に経験したことを尋ね、それを互いに教え合いながら活動するよう助言する。それとともに手順を丁寧に教え、協力し合いながら進められるようにする。</p>



## ▶ 接続期の指導および家庭との連携のポイント ◀

項目	5歳児(10月～12月)	5歳児(1月～3月)
生活習慣	<p>共用物の整理整頓がしやすくなるように、子どもと話し合っ て環境を整える。</p>	<p>身の回りの整理や片付けを行うことの必要性を意識させ、 協力しながら進んで行えるようにする。</p>
	<p>所持品の片付けを進んで行う姿を認め、さらに丁寧に行える ようにする。</p>	<p>自信をもって就学できるように、生活習慣を全員が身に付け ているか確認する。十分でない場合は、家庭と連携しながら、 身に付けさせる。</p>
	<p>秋から冬への健康な生活習慣を身に付け、進んで生活の決ま りを守るように働きかける。</p>	<p>健康な生活を送るために、手洗い、うがい、食事、睡眠などの 大切さを話し合う場を設定したり、絵本などの教材を活用し たりして、子どもが健康について意識できるようにする。</p>
	<p>見通しをもって活動を進められるように、その日に行うこと や次に行うことについて子どもと一緒に確認をする。</p>	<p>子どもが互いに声を掛け合って生活を進められるように、保 育者は声を掛けるタイミングや言い方を工夫する。</p>
	<p>指示されなくても、生活の流れを見通しながら、自分で考え て行動できるように助言する。</p>	<p>文集作りなどを通して、楽しかった園生活を思い出したり、 卒園時期が近づいていることを感じたりできるようにする。</p> <p>行事や経験を通して、伝統的な日本の文化に関心をもたせる ようにする。</p>
運動	<p>保育者も参加し、体を動かしたり競い合ったりして、仲間と 遊ぶことを楽しめるようにする。</p>	<p>クラスの友達と誘い合って大勢で動ける遊びを提案し、それ が自分たちの遊びになるように繰り返したり、ルールをクラ ス間で共通にしたりするなどして、ダイナミックに遊べるよ うにしていく。</p>
	<p>リレーや綱引きなどの、力を十分に出して競い合う遊びを、 楽しめるように保育者が促す。</p>	<p>自分自身の目標に向かって挑戦してきた、なわとび、うんてい、 鉄棒、竹馬などを披露する機会を作り、自信や意欲につなげる。</p>
	<p>竹馬やホッピングなどの、体全体でバランスを取る遊びも、 楽しめるように促していく。</p>	<p>遊びの中での「人を助けながら逃げる」といったスリルや複 雑な動きを十分に楽しめるようにし、仲間と相談しながら作 戦を立てる姿を認め、自分たちの成長への自覚や、仲間との つながりを実感させる機会を作る。</p>

1年生(入学～2週間)	1年生(入学2週目～5月上旬)
<p>登校の仕方、登校してから(支度を済ませたら「のんびりタイム」など)、チャイムでの時間の区切り方など学校での生活の仕方や、持ち物の管理の仕方などを大体理解できるように工夫する。(写真や絵、簡単な文字での指示など)</p> <p>給食開始前に、栄養士の話の聞いたり、給食の準備の仕方を学んだりする時間を設定する。</p> <p>休み時間の児童の過ごし方に、担任は日常的に気を配る。</p>	<p>登校の仕方、登校してから(支度を済ませたら「のんびりタイム」など)、チャイムでの時間の区切り方など学校での生活の仕方や、持ち物の管理の仕方に慣れ、時間を意識できるようにする。(時計模型、簡単な文字での指示など)</p> <p>給食に慣れるよう、配膳や当番のやり方、食事の仕方など、できるようになるまで一つひとつ確かめながら言葉をかける。</p> <p>登校時や下校時の挨拶が元気にできるように言葉をかける。</p>
<p>休み時間には上級生や友達と関わって体を動かすことを楽しめるよう教師もともに遊んだり見守ったりする。</p> <p>広い校庭や体育館などで思い切り遊んだり体を動かしたりできる機会を設定する。(体育・「なかよしタイム」など)</p>	<p>休み時間には安全に気を付けながら、体を動かすことを楽しめるように見守る。</p> <p>広い校庭や体育館などで思い切り遊んだり、ルールのある簡単なゲームをしたりして、体を動かす楽しさを体感できる機会を設定する。(体育など)</p>

## ▶ 接続期の指導および家庭との連携のポイント ◀

項目	5歳児(10月～12月)	5歳児(1月～3月)
家庭との連携	<p>活動への取り組み方は一人ひとり違うことを伝え、その子どもなりの成長を認めてもらえるようにする。</p> <p>就学时健診に向けて各家庭と連絡を取り合う。</p> <p>就学に向け、生活リズムなどを園と家庭の双方で見直して、意識的に生活をしてもらうようにする。</p> <p>寒暖の差に対応できるよう、衣服の調節がしやすい服装にしよう。</p> <p>子どもが小学校に行くことに期待をもって臨めるよう配慮する。</p>	<p>個人面談では、一人ひとりの成長や課題などについて話し合い、個性を活かしながら、就学に向け自信をもって残りの園生活を送れるように、具体的な援助について保護者と共通認識をもつ。</p> <p>保護者会で校長先生の講話を聞く機会をもつなど、小学校の生活や学習に関する、具体的な話を通して入学に向けての不安や疑問を解消できるようにする。</p> <p>発表会などを行う際には、開催までのプロセスや内容を保護者に分かりやすく伝え、子どもの成長や頑張りを知らせて、家庭と喜びを共有できるようにする。</p> <p>子どもと一緒に、通学路や小学校から学童クラブまでを歩いたり、見学をしたり、通学への不安を和らげる対応を保護者に提案する。</p>

1年生(入学～2週間)	1年生(入学2週目～5月上旬)
<p>小学校生活が「ゼロ」から始まるのではないことや、徐々に慣れていくようなスタートカリキュラムを組んでいることを保護者会や学年だよりなどで伝え、保護者の不安や疑問を解消できるように努める。</p> <p>早寝、早起き、朝ごはん、身支度、登校など、学校の生活リズムに慣れることが学校生活の基礎作りの上で大切なことを伝え、家庭での協力を依頼する。</p> <p>教科書や各教科のノートなど、学習に使う用具の名前を教えるとともに家庭でそれらの名前を復唱しながら時間割をともにそろえてもらえるよう依頼する。</p>	<p>スタートカリキュラムが4週間で終了することなど、学校での様子を保護者に知らせるとともに、家庭訪問や学年だよりなどを活用して、児童が学校生活へ概ね馴染んでいるのか、機会を捉えて、家庭での様子を尋ねる。</p>



# III

---

## 年齢別実践例

幼稚園・保育所・小学校各現場での年齢別援助のポイントや、保護者との連携のポイントを実践例に沿ってわかりやすく紹介します。



# 0歳児の実践例 【せんせい 大好き!】

## 子どもが経験している内容



笑顔で、ゴールイン!

- 「〇〇ちゃん、おいで」の呼びかけにこたえて保育者のいるところまではいはいをする。
- 保育者との関わりの中で、自ら活動しようとする意欲が芽生える。

学びの芽生え

人との関わり

運動



離乳食をひとくち

- 少しずつ食べ物に親しみ、様々な食品に慣れていく。(ただし、アレルギーには十分気を付ける)
- 保育者が「おいしいね」と声をかけると、視線を合わせながら喜んで離乳食を食べる。

人との関わり

生活習慣



すやすや寝息をたてて、気持ち良く

- 安心できる環境の中で、心地よく睡眠をとる。
- 生活リズムが次第に安定し、活動と休息のバランスが整っていく。
- 寝付きに合わせて、保育者に介添えをしてもらい、見守られて安全に睡眠をとる。

人との関わり

生活習慣

## 援助のポイント

- 身近にいる特定の保育者が応答的に関わることで、情緒的な絆を深めていく。
- 一人ひとりの発達段階を把握して個々の発育に応じた対応を心がけ、子どもが安心して気持ち良く過ごせるようにしていく。
- 身近な物に関心をもって、自分から関わろうとする探索意欲が高まるよう環境を整え、子どもの興味や関心を広げていく。
- 表情や発声、身振りなどから気持ちを汲み取り、言葉にして返すなど応答的に関わりながら子どもの表現意欲を高め、言葉によるコミュニケーションの芽生えへとつなげていく。

## 家庭との連携

- 送迎時の対話や連絡帳、園内の掲示、保護者会、個人面談、保育参観(参加)、行事への参加などを通して子どもの育ちを保護者に伝え、子どもの成長の喜びを保護者と共有する。
- 子どもに関する情報交換を保護者と細やかにやり取り、保護者の様々な思いを受け止めて育児相談などに応じ、子育ての楽しさを伝えていく。
- 連絡帳の活用により、一日の生活を連続的に支援していく意図や、保護者と園が手を携えて子どもの育ちを支えていく必要性を伝え、協力してもらう。



# 1歳児の実践例【ひとりでできるよ】

## 子どもが経験している内容



おいしいね

- 着脱の際、保育者に手伝ってもらいながらも、自分でできるところは自分でやってみようとする。

学びの芽生え

生活習慣

運動

ひとりで脱げるよ



- 保育者に手伝ってもらいながら、スプーンやフォークを使って自分で食べようとする。
- 「野菜も食べてみようね」など、保育者に励まされて、好き嫌いをせずに意欲的に食べる。

学びの芽生え

人との関わり

生活習慣

小さなものでも  
つまめるよ

- 棒落としや紐を穴に通す遊びなど指先を使った遊びを楽しむ。
- 自分のやりたい遊びを楽しめる環境の中でじっくりと遊びに取り組む。

学びの芽生え

運動



## 援助のポイント

- 基本的な生活習慣が身に付くよう、子どもの発達過程を考慮しながら一人ひとりに丁寧に寄り添い、自分でやってみようとする気持ちが芽生えるようにさりげなく手伝う。
- 生活や遊びを通して、子どもが自分でできたことを保育者と一緒に喜び、次への意欲に繋げていく。
- 子どもが興味や発達に沿った遊びを十分に楽しめるように、種類や数を考慮して玩具を提供する。玩具の取り合いなどのトラブルが生じることもあるので、遊びに集中できるように、遊びに応じたコーナーを設定したり、少人数で取り組めるような環境構成を工夫したりする。

## 家庭との連携

- 子どもが身の回りのことを自分でしようとする姿が見られたら、自分でできるように手を貸したりほめたりしながら、自分でしようとする思いを受け止め見守るよう伝える。衣類や靴などは、子どもが自分で着脱しやすいものを用意してもらう。
- 言葉で自分の思いを伝えきれないため、取り合い、ひっかき、かみつきのトラブルが生じやすい時期であることと、それに対応する園の取組・配慮などを合わせて伝えていく。
- 応答的な関わりによって言葉を獲得していく時期なので、子どもと目と目を合わせて受け答えすることの大切さを伝える。

# 2歳児の実践例【まねっこ 大好き】

## 子どもが経験している内容



友達と一緒に鉄棒遊び

- 少人数の友達と同じ場所で遊ぶ。
- 保育者や友達の真似をして、同じようにやってみようとする。

学びの芽生え

人との関わり

運動

靴、自分で履けるよ

- 座って体のバランスを取りながら、靴下や靴を履こうとする。
- 友達の様子を見ながら、自分も意欲的にやろうとする。

ケーキができました



- 人形をおんぶしたり、スカートをはいたり、料理をする真似をしたりするなど、両親や身近にいる人から影響を受ける。
- 遊具を実物に見立てたり、友達の遊びを真似したりする。ごっこ遊びを楽しむ中で、「貸して」「仲間にいれて」「いいよ」など言葉を交わす楽しさを感じる。

学びの芽生え

人との関わり

運動

学びの芽生え

人との関わり

## 援助のポイント

- 好きな遊びが楽しめるように、子どもの興味・関心に合わせた玩具を揃えるなど、遊ぶ環境を整える。
- 自分の好きな遊びを楽しんでいる時は様子を見守り、子どもが満足感や達成感を感じられるようにする。遊びの発展を手助けできそうなどときには、必要に応じて関わっていく。
- 保育者も一緒に遊びを楽しむことで、近くにいる子どもにも遊びの楽しさを伝えていく。
- 友達とのトラブルが生じた時には子どもそれぞれの思いを受け止め、保育者が言葉を添えて子ども同士の気持ちを代弁し、子どもが友達の思いに気付くように促す。

## 家庭との連携

- 友達への関心が芽生え、一緒になって遊ぶ一方で時には互いにぶつかり合うこともあるが、それは成長過程であることを保護者に伝える。
- 思い通りにいかない場合に、泣いたりかんしゃくをおこしたりして自己主張をする姿は、子どもの育ちとして受け止める。やって良いこと、いけないことを伝えながら、子どもが気持ちを立て直すことができるように関わっていくことを知らせる。
- 周りの大人は子どもの手本となるように、自分の言動に注意するよう伝える。

# 3歳児の実践例【みんなと一緒に！】

## 子どもが経験している内容

- 手洗いの仕方が身に付き、自分で行おうとする。
- 順番に並んで行く。

人との関わり

生活習慣



きれいに手が洗えるよ！  
順番も守れるよ！

みんなで遊ぼう！  
フルーツバスケット



- ゲームの「おに役」は、自分で考えた"お題"をメンバーに言葉で伝える。
- 子どもたちは「おに役」の"お題"を注意深く聞いて、該当する場合は椅子から立ち上がり、席を移動してゲームを楽しむ。

学びの芽生え

人との関わり

みんなと協力して、  
大きな山を作りました！



- 全身で砂の感触を楽しみながら、自分のイメージを表現する。
- 遊具を仲立ちとして場を共有しながら子ども同士で関わり、友達と一緒に砂山を作って楽しむ。

学びの芽生え

人との関わり

運動

## 援助のポイント

- 生活の仕方を理解し、基本的な生活習慣がある程度確立できるようになってくる時期であるため、自分でやろうとする姿を見守り、不完全な部分は助言をしていく。
- 自分の好きな遊びを十分に楽しむ経験を大切にす一方、ルールのある簡単な集団遊びを友達と一緒に楽しみ、友達との関わりが深められるような場面を設定する。
- 想像力が豊かになる時期のため、自由に考えたり表現をしたりすることを楽しめるようにしていく。

## 家庭との連携

- 子どもが初めて集団生活を経験する場合は、子どもの様子を伝え合い家庭との連絡をより丁寧に行いながら、子どもや保護者との信頼関係を構築していく。
- 自分の思ったことや楽しかったこと、経験したことを言葉に表し、言葉のやり取りを楽しむ時期であるため、家庭においても親子で話す機会を設けることの大切さを伝える。
- 自分の好きな遊びを十分に楽しむ一方、友達との関わりを徐々に深める時期であることを伝える。



# 4歳児の実践例 【お店ごっこ遊び】

## 子どもが経験している内容

お買い上げ  
ありがとうございます！

- 自分の思ったことや考えたことを言葉や動きに表して楽しむ。
- 身に付けるものなど、必要なものを自分なりに工夫して作ったり、それらしく動いてみたりして楽しむ。
- 自分のしたいことを繰り返したり試したりして遊ぶ。

学びの芽生え



- 自分なりになりきっている様子を友達や先生に受け止めてもらう嬉しさを感じる。
- 友達と自分の思いが違うことに気付いて折り合いをつけようとする。
- 友達の言動に応じたり相手の思いを受け止めたりすることで、遊びがより楽しくなることを感じる。
- 遊びに必要な言葉のやりとりをする。

人との関わり

お店の看板も  
準備しました！

- 遊びに必要な玩具や用具を自分たちで運び、工夫して設定する。
- 片付けの意味がわかり、明日に備えて残すものと片付けるものと考えながら、場の整理をしようとする。

学びの芽生え

生活習慣

## 援助のポイント

- 自分の思いを様々な方法で表現しようとしている姿を認め、周りの友達にもその様子を伝えていく。
- ごっこ遊びの中で自分の思いを受け止めてもらって子どもが嬉しく思う気持ちに共感する。  
遠慮しがちな子どもに対しては、自分の気持ちを出していけるように声をかける。
- イメージを形にできるように保育者の側からもアイデアを出していく。  
また、自分で作った物を使って遊ぶ楽しさを感じられるようにする。
- 遊びの目的やイメージに合った材料や用具などを用意する。
- 友達の話に耳を傾けるように促したり、友達がやっていることを言葉にして気付かせたりする。  
また、友達の思いや考えを受け止めることで遊びがより面白くなる楽しさを共感する。
- 続きができるように看板や場を残しておいたり、じっくりと遊べる時間を保障したりしていく。

## 家庭との連携

- 遊びの中で子ども本人がこだわっていること、楽しんでいること、友達との関わり、本人が頑張っている様子や育っていることを伝えていく。
- 目に見える成果だけでなく、取組の過程の子どもの様子を降園時やおたよりなどで伝え、この時期の幼児の姿についての理解を促す。
- 買い物に行く機会などの、地域や家庭での出来事を大切にしてほしいことを伝える。
- 遊びに必要なものを作るための材料(空き箱などの廃材)を集める協力依頼をし、子どもの園生活に関心を高め一緒に楽しめるようにする。
- 子どもが制作した作品のアイデアの良さに気付き、喜び合えるようにする。

# 5歳児の実践例 ① 【劇遊び】

## 子どもが経験している内容

劇に必要な大道具を  
考えて作ります

- 共通の目的に向けて自分なりに考えたり工夫したりしながら、実現に向けて友達と一緒に取り組む楽しさを味わう。
- 自分のイメージの実現のために必要な材料を選び、作り方や組み合わせ方を試したり工夫したりして小道具を作ろうとする。
- 観客に分かるように、場面に合わせた話し方や台詞を考えて表現しようとする。

学びの芽生え



- 共通の目的(劇づくり)に向かう中で互いに感じたことや考えたことを言葉で伝え合いながら取り組み、充実感を味わう。
- 友達と折り合いをつけることで新しい考えに気付いたり、様々な考えがあることの面白さを感じたりする。
- 観客を意識し、観客に喜んでもらうことで満足感を感じる。
- ストーリーを進めるために友達と互いに助け合う。

人との関わり

身に付けるものも  
工夫して作ります

- 劇の衣装を大切に扱うことで、物の整理ができるようになる。
- 目的を達成するために必要な材料を選択し、工夫をする。
- 全体のイメージをつかんで見通しをもち、友達と意思を確認し合いながら活動を進めていこうとする。

学びの芽生え

人との関わり

生活習慣

## 援助のポイント

- 劇のストーリーや内容は日頃の遊びの内容を題材として、子どもの関心を生かしながら一緒に創っていく。
- 劇遊び(発表)に向けて、自分たちのグループの進行状況や独自に工夫したことなどを発表し合い、クラスの友達と共有する機会を設ける。
- それぞれがもつイメージを探りながら、効果音や小道具等の材料を自分たちで準備したり、何が必要か自分たちで考えたり工夫したりできるように声をかける。
- 共通の目的に向けて、自分の力を発揮したり得意なところを生かしたりして活動に取り組めるように、一人ひとりのよさや得意なことを引き出していく。
- 劇の進行方法などについては、子どもが自分たちで進められるようにして、仲間と一緒にやり遂げる満足感、連帯感がもてるようにする。

## 家庭との連携

- 子どもが経験してきたことを基に劇を作っていくプロセスを、おたよりなどで分かりやすく伝える。また、本人の役へのこだわりや思いなどを伝え、家庭でも認めてもらえるように働きかける。
- 劇遊び(発表)では、アイデアを出し合って自分たちで創っているという意識をもち、クラス内やクラス間のつながりが深まっている様子を伝える。集団としての育ちも意識してもらい、成長を喜び合う。
- 観客(第三者)に見せるということを意識して表現しているので、子どもなりの表現を受け止めてもらえるように伝えていく。そして、受け止められたことが自信となり、満足感、充実感となって小学校生活に生きていく、ということも伝える。

# 5歳児の実践例 ② 【係の引き継ぎ】

## 子どもが経験している内容

こんなふうに洗ってください

- もうすぐ卒園することが分かり、年中児に係の仕事丁寧な伝えようとする。
- 相手に分かってもらうように言葉を選んで伝えようとする。
- 自分の話した内容が年中児に伝わることで、人の役に立てたという満足感や自己肯定感を覚える。

学びの芽生え



- 年中児が分かるようにやって見せたり、言葉を補ったり、実際に年中児に挑戦させてみたりして、伝え方を工夫する。

人との関わり



靴箱の掃除は、こんなふうにやって

- 係の仕事に必要な道具の使い方や、片付けなどの一つひとつを年中児に教える。
- 動物の世話や掃除の順序や方法を、年中児に分かるようにやってみせる。

生活習慣

## 援助のポイント

- 自分の力でできるという喜びや自信をもたせることを期して、子どもが自分なりに考えながら引継ぎをしていることを認め、見守る。
- 引き継ぐ内容が年中児に伝わっていることを確かめるように促すとともに、仕事を引き継いだことへの安堵感や小学校に入学することへの期待感をもてるように働きかける。
- 年中児の保育者と連携を取り、年中児からの感謝の言葉を伝えるなどの工夫をし、引き継ぎをした年長児の自信が高まるようにする。

## 家庭との連携

- 登園・降園時の連絡やおたより、連絡帳などの機会を生かし、引き継ぎの際の子どもの様子を丁寧に伝える。また、自発的に行っていることや、考え、工夫して行っていることなど成長している姿を示し、子どもとの関わり方も少しずつ変えていくようにすることで、円滑な小学校入学へとつながることを伝える。
- 入学が間近になり、子どもから不安が感じられる際には、保護者と一緒に通学路を歩いたり、校庭開放に遊びに行ったりするなどの、具体的な対応の仕方を助言する。



# 小学校1年生(入学～2週目)の実践例【給食が始まるよ!】

## 子どもが経験している内容

- 給食の準備から片付けまでの手順が分かる。
- 給食を楽しみにし、好き嫌いをせず何でも食べようとする。

生活習慣



初めての給食当番

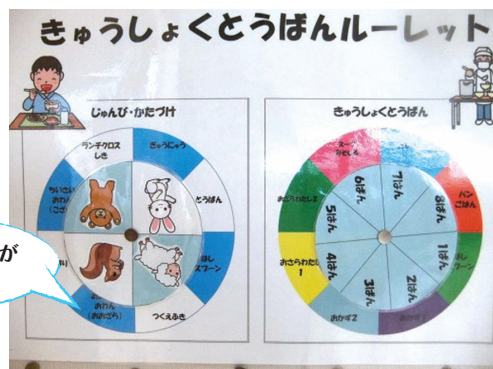
- 友達と一緒に仲良く当番活動に取り組む。
- 当番のやり方や給食のきまりを知り、守る。上級生に手順を覚えてもらいながら行う。

人との関わり



給食が始まる前の  
栄養士さんのお話

今日はリスの人が  
当番です



## 援助のポイント

- 食事の前に、栄養士に給食の大切さや準備の仕方について説明をしてもらい、給食への楽しみをもてるようにする。
- 給食準備に慣れるまで、余剰時間などを活用して準備時間を十分取る。また、児童が安心して給食を食べられるように、食事の時間も通常の時間より長めに取るよう、時程上の工夫をする。
- 児童がよく分かるように、給食当番の仕方や役割などを絵や色使いを工夫して図で表示する。

## 家庭との連携

- 入学前説明会や入学直後の保護者会などで保護者の給食への不安(アレルギー・好き嫌い・時間・食の細さなど)を直接聞き、最初の給食指導の仕方や趣旨などを説明して不安解消に努める。
- 機会を捉えて、配膳に使う道具(おたま・しゃもじなど)の名前や使い方を教えたり、練習させたりするよう、保護者に呼びかける。
- 給食試食会を設定して実際の給食の味や量を体験してもらい、その感想などを家庭での話題にしよう。



# 小学校1年生(2週目～5月上旬)の実践例 [生活科 ときどきわくわくしょうがっこう～学校たんけん～]

## 子どもが経験している内容

- 学校の施設や教職員・上級生などに関心を持ち、自分から進んで探検活動をする。
- 学校探検で見付けたことや気付いたことを楽しく伝える。

学びの芽生え



先生、ここは何をするお部屋ですか。

- グループの友達と助け合い、楽しく工夫しながら探検や表現の活動に取り組む。
- 教職員・上級生などに関わり、信頼できる人を増やしていく。

人との関わり



円になってみんなで考えます！

みんなで相談しよう。

校長先生、発表を聞いてください!!



## 援助のポイント

- やりたいことを見付ける、その実現のために人と関わるなど、児童が入学前に経験したことを引き出し、学校探検やそれを簡単に発表する様々な活動につなげ、意欲的に学習できるようにする。
- 国語、図画工作、道徳などの教科等と関連的な指導を図り、繰り返し学校や学校生活について考える機会を設定することで、学校生活への関心や理解、安心感を高めるようにする。
- 児童の発達段階を踏まえ、はじめは探検等活動を中心とした学習と、それを伝えたり短い言葉や絵で記録したりする学習を組み合わせ、1単位時間(45分)を構成するようにする。本単元を教科学習につなぐ単元として位置付け、十分に学習を楽しむことができるようにする。

## 家庭との連携

- 年度当初の保護者会や学年だよりを活用し、ここでの学習のねらいが「楽しく安心して遊びや学校の生活ができるようにする」ことであることを説明して、家庭でも進んで話題に取り上げてもらうようにする。
- 学校公開などの機会を活用し、児童が学校の探検活動で見付けたものや分かったことなどの発表を保護者に対して行えるようにし、参加を呼びかける。

# IV

## 参考資料

今、初等中等教育全体を通じた学習指導要領の改訂の取組が進められています。「高等学校を卒業する段階で身に付けておくべき力は何か」をもとに幼児教育から高等学校までを見通した、資質・能力の3つの柱（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力・人間性」）で明確にされました。それぞれの教育が円滑に接続し、連続性・一貫性を確保し子どもに対して体系的な教育が組織的に行われることが、重要となっています。これらのことを踏まえ、幼児期の教育に関しても平成30年4月実施の新幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携認定こども園教育・保育要領で、同じ幼児期の子どもたちを育む就学前施設として、3歳から5歳までの教育内容が共通になり整合性が図られました。

また、幼児期から高等学校までを見通した3つの柱によって、幼児教育と小学校教育以降とのつながりが踏まえられました。そして、それを土台として、幼児期の終わりまでに育ってほしい資質・能力が、『**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**』（10の姿）として具体的に示されました。

「幼児教育は見えにくい教育」とも言われてきましたが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（10の姿）を通して具体的に話し合うことで、幼保小の接続強化および同じ幼児期の子どもを育む就学前施設の相互理解が深まると考えられます。

# 幼稚園教育要領「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

文部科学省(平成29年告示)

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

# 保育所保育指針「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

厚生労働省(平成29年告示)

(1) 健康な心と体

保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。





## ねりま接続期プログラム

---

平成30年(2018年)6月

【発 行】 練馬区教育委員会

【問 合 せ】 教育振興部 教育施策課 教育施策担当係

☎ 03-5984-1290